



常務のひと言



常務取締役 穴口 義記

7月の西日本豪雨で多くの犠牲者が出た。その有様をテレビ新聞等で見聞きすると、他人事とは思えなく涙が出た。私たちが住む富山県でも近い将来、そのような事が起こるかと思うと不安になる。

当社は、そのような災害をなくすために60年以上、砂防工事や道路防災工事を営んできた。私自身も40年間そのような工事を行ってきたが、特に雑穀谷砂防においては7基の砂防ダムを施工してきた。しかしながら、「その時」までは当事者である身でも、それらの防災施設がそれほど重要とは思えず、一般の納税者はどう思うだろうかと考えていたものである。平成7年7月11日に「その時」が来た。前日から雨脚が強くなり、建設機械や機材を流失の恐れが無い場所に退避させて作業を午前中で中止していたが、翌日には現場にすら辿り着くことができなかった。昭和44年の水害以来、26年ぶりに大量の土砂を含んだ土石流は谷幅すべてを覆いつくし、そこにあった建設機械や機材のほとんどを押し流した。そのあとに残った大量の土砂は20年の間、青々と水を貯えて、イワナの生息のためにしかないような砂防ダム群堆砂敷きを埋め尽くしたのである。入社以来、砂防ダムの重要性を初めて知ることとなった。

近年、マスコミを中心に建設会社をネガティブに報道し、公共事業を重要と考えない風潮がある。人口減で国や自治体の予算には限りがあることは理解しているが、起こってから費用より、起きる前の防災施設建設に掛かる費用の方がずっと安いと言われている。さらにはそれによって尊い人命も救えるのである。



これからも当社は常願寺川流域の人命財産を守るという誇りと共に、社員一丸となって砂防ダム、護岸などの防災事業を進めていきたい。

西日本を中心とした豪雨被害について

豪雨災害により被災した方々に心よりお見舞いと哀悼の意を表します。

東日本から西日本に停滞している前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となり、前線の活動が活発になりました。このため、東日本から西日本では、7月の月平均値を超える記録的な大雨となり、各地で甚大な被害が出ました。

政府は「地方自治体及び関係機関・団体と緊密に連携し、災害応急活動に総力を挙げて取り組むとともに、国民生活・経済活動の早期回復に全力を尽くす」との方針を表明しました。

当社としても、毎年のように日本のどこかで繰り返し起きる災害に対し、他人事ではないとの認識を新たにし、災害に対応できる体制づくりに努力していかねばなりません。

●湯川第13号砂防堰堤工事安全パトロール●

女性社員を交えて安全パトロールを行いました。女性社員参加の目的は、主に、女性目線での現場の安全確認・対策・改良などです。

湯川第13号砂防堰堤工事の現場は、有峰ダムから車でさらに30分ほど山奥へ進んだところにあります。

実際に現場に行ってみると、細かな点で気になる事がいくつか挙がりましたが、すでに改善は行われています。安全パトロールは一ヶ月に数回行っていますが、今年は災害レベルの猛暑日が続いたこともあり、熱中症の対策・呼びかけに力が入っていました。些細なことですが、その積み重ねが安全に繋がるのだと思います。



平成6年にあった事、覚えていますか？

社内の整理整頓をしていると、古い新聞が見つかりました。なぜこんな昔の新聞が？実はこの新聞には、ネパールからの第一回研修生の来日記事が掲載されていました。年代を見ると、平成6年。ネパールの方々とは、24年も前から交流を続けています。

ちなみに、この第一回生の一人に、現・ブータン事務所長のテンジン・シェルパさんがいます。



平成6年1月→富山新聞掲載記事
←現在のテンジン・シェルパさん (写真左)



熱中症に注意！

各地で記録的な猛暑日が続く、熱中症患者が後を絶ちません。熱中症は、高い気温・強い日差しなどの環境、高齢者・乳幼児・肥満・二日酔いや寝不足による体調不良などのからだ、長時間の屋外作業・激しい運動などの行動からなる3つの要因により、体温調整ができず上昇し、症状があらわれます。

もし熱中症にかかってしまったら、まず、涼しい場所へ移動し、体を冷やして体の熱を逃がしましょう。その後、水分補給や病院の受診など、適切な処置を行ってください。自分で飲める場合は大丈夫ですが、気分が悪い・意識がない等の症状がある人に、無理やり飲み物を飲ませてはいけません。

また、症状が回復してもすぐ作業には戻らず、しばらく休息をとりましょう。

すでに熱中症により高齢者や子どもが命を落としています。家族や周りの人にも、こまめな水分補給や炎天下での畑仕事の中断などを促しましょう。



リレーコーナー

「第一子」 土木部 石田 崇祥

昨年、第一子が産まれました。産まれる前は、「男の子がいいな〜」「女の子がいいな〜」「ママに似てくれるといいな〜」など、夫婦共々願望の塊となっていました。子供が産まれた今は、「元気に育てほしい」「いい子に育てほしい」はもちろん、「早く会話がしたい」「一緒にいろんな所へ行って遊びたい」など、新たな願望の塊と化しています。あくまで、親の願望に過ぎないので子供には押し付けたくないよう、大切に、なるべく自由に育てていきたいと思えます。



7/25 雄山神社峰本社例大祭に塚田課長・金谷工場長が参加

立山頂上の雄山神社には、立山町長はじめ、立山に関わる各種団体の代表の方々が大勢登り、午前10時から神事が執り行われました。

当日は天気が良く今年の猛暑の影響で、立山周辺も今まで感じたことのない暑さでした。一の越からの登山道は、立山ガイド協会により整備され、一部階段状に石が積まれ、上りと下りのルートが分けられおり、歩きやすく感じられたそうです。



8月行事予定

- 7日 立山砂防殉職者慰霊祭
- 14日~17日 夏季休暇
- 24日 全体会議
- 随時 社内安全パトロール